

## 大町市高瀬川観音橋支柱桜公園の造成 (メモ)

草間 勉\*

### 支柱桜公園の由来

大町市泉地区高瀬川観音橋河川敷には、美しい自生の桜があるので最近まで10年以上手入れをしてきた。周辺にクズがあり、桜にからんで今にも枯れそうになっていた。桜は50～60年もの樹齢で、根元からひこばえの幼木も出ていた。親木から3m位離れたノイバラの群生に囲まれて、桜は幼木のひこばえを育てているのに気づき、人間の場合と同じに思えて、親木の根元から切りはなして手入れした所、3～5ヶ所で成功。ここに2本のクローン株を育てている。30年位前まで野菜畑に使っていた支柱の山積みが肥料分になって、桜を育てたようだった。この命の営みに感動して、自生で自然交配で生えていた桜に支柱桜と名付けて、小さな桜公園を造成している。2018年には8年目の春を迎える。

### 公園の広さについて

南北に50m東西45m位で2500㎡、約600坪。この広さの中に車の通れる道と回れる広場を3ヶ所造った。近くから移植した苗を約30本植えている。日本産野生種約10種の大部分を育てている。

### 特徴について

狭いことと、岩石が多い河原であるから、石囲の中に3～8株の桜を植えている。土は客土と腐葉土で培養土を補足した。育成した新種や自生の中から生じた変種、交雑種で構成している。

### 培養土について

小石や砂地へ植え穴の直径100cm、深50cm、1株約150kgとすれば、30株では4.5tもの客土をしたことになる。その人力はかなり苦勞をつづけた。

### 公園内の大石の数と配置について

大石は50cm×25cm×20cm位以上の石で、約25kg～50kgあるもの。上流の西北よりで80個、中央に46個、東南よりに14個ころがっていた。公園西より50個、中央部32個、東より15個位数えられた。

### 支柱桜公園の桜・育て方

砂と小石の多い河川敷の原野地で石囲いの中の土条件をよくする客土で育てるやり方であるから、植木鉢に量の少ない盆栽の土条件をつくって、小ぶりの桜株育成を行う事になる。それが、コンパクトに育つかどうかの試行だと思っている。

### 公園の中のエリアについて

その中核は車の通れる幅のある道と石囲いの中に植え付けている桜の庭園に3～8株の桜園5ヶ所の間に出来た広場が3ヶ所は、車の方向変換ができて、遊び場にもなる。以前から自生して30～60年位たった3本の木が、コナラとトウカエドと支柱桜で

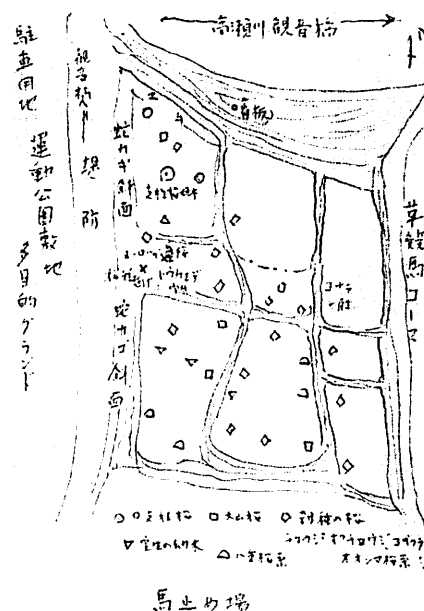


図1 支柱桜公園見取略図

\* 草間 勉 〒389-0002 長野県大町市大町 3627-4

バランスがよい。更に今回から、カエデを2本加えた。つるバラやツツジ、アジサイが加わる。南天もコナラのまわりをひきたたせている。

新しい河岸段丘の形成途上

荒れ水がよくでる河川であるから、川岸の部分は狭くて小さい。年数的にも、数十年から数百年の間に出来てきたもので、何千年は経過していないものが大半と思う。

除草徹底によって変化した植生

河川敷はクズのつるで表面が独占され、ヨシと上流からヒエが流れてきてはえてたり、砂地にはムシトリナデシコが群落をつくって目立っている。クローバー、ススキ、ベニバナツメクサなど生えて地面を覆っていた。車が一面を使うようになってから、地面の植物群落は変化している。体育行事で駐車数

が増え、草競馬の時も車が河川敷全体に入ってくる。競馬コースの中のフィールドは、アカマツなどの自生実生や草本も珍しいものが育つ。イブキジャコウソウやツメレンゲなどと、珍しい蝶の食草になる種類があるらしい。

地形の起伏による生育条件の差異など

河川は北から南方向へ流れているので、北から南の下流までに標高差が1～2 m出来ている。1/50～2/50の傾斜だが、公園中心部は周囲よりやや低いので、まわりの少し高いスペースより水分が多い所を好む植物がよく育つ。一段高く乾く砂地で乾燥する所にはオキナグサがよく育ってふえた。北アルプス連峰の北から白馬3山、鹿島五竜そして蓮華の前山、楯峰の山すそに公園の西側数百mで接している。北は数 km で大町ダムとなる。東と南は上手の上の新しい河岸台地に囲まれている下流へぬけている。

公園場所の形成年について

| 高さの程度 \ 場所 | 公園北側      | 公園東側     | 公園南側      | 公園西側      |
|------------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 最大－最小 (cm) | 250 ～ 200 | 200 ～ 60 | 250 ～ 150 | 250 ～ 200 |
| 平均 (cm)    | 180       | 100      | 200       | 200       |

注1：上流に1970年以降に大型ダムが3ヶ所できる。

注2：公園は河岸段丘

注3：中央のくぼ地は20～30cm低い。

## 種・品種の特徴など一覧

| No. | 種・品種               | 特徴等観察確認事項                                                                   |
|-----|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1   | タカネザクラ             | 標高 1000 m～ 3000 mまで。森林内岩石の間に自生していた。                                         |
| 2   | イヌザクラ              | 大町市美麻区大塩に巨大木。静の桜がある。遅咲き 5 月下旬～ 6 月はじめ。花は小さく、花枝に総状に咲いて一見桜に見えない。普通の枝に花枝を出して咲く |
| 3   | ウワミズザクラ            | 山野に広く分布。イヌザクラやミヤマザクラより多い。枝から出た花つけ枝の先に総状花をつけ葉もついている。                         |
| 4   | ミヤマザクラ             | 標高のやや高い高冷地に自生分布していた。総状花をつける。                                                |
| 5   | 交雑種 姫福桜<br>ヒメフクザクラ | 姫川河岸に生じていた雑種の桜で JR 南小谷駅西斜面で実生が育っていた。これを数ヶ所に植えている。小輪多花紅色。                    |
| 6   | カスミザクラ             | ケヤマザクラは純白の花。カスミザクラは葉と花の色が似てかすむことから名付く。                                      |
| 7   | エドヒガンザクラ           | 自生は大町南部と平区野口、東は三日町居谷里入口。墓地に枝垂れのエドヒガンを植える風習がある。寺や神社にもよくある。                   |
| 8   | チョウジザクラ            | 池田町大峰山、大町市社から唐花見にあった。大町以南には分布する。                                            |
| 9   | オクチョウジザクラ          | チョウジザクラより花卉が大きく、美しく目立つ。豪雪地に自生分布する。白馬から小谷に多い。                                |
| 10  | ヤマザクラ              | 長野県では自生分布はないと言われているが、木曾谷南部落合に自生し、新潟県糸魚川には分布あり。                              |
| 11  | オオシマザクラ            | どこにでもよく育つので数多く植え付けられている。伊豆の海岸近くで自生を発見して命名、広められた。八重桜の母体である。                  |
| 12  | キンキマメザクラ           | 近畿地方、日本海岸で自生の群落を見た。花は小さい。                                                   |
| 13  | マメザクラ              | フジザクラは富士山麓にあり、マメザクラとも言われ、樹高も低く、花の小さい。交雑種も多い。                                |
| 14  | 交雑種 森上桜            |                                                                             |
| 15  | 変化種 名残桜            | 他の桜の花が終わるころ、最後に咲く。八重咲きの実生から育てたが、半八重花をつける。                                   |
| 16  | 変化種 面影桜            | 姫福桜の実生から育った。幹は細いがよく伸び、花は母木より大きく白色で美しい。                                      |